

【優秀賞】

「今、私たちに求められること」

立命館慶祥中学校

1年 茶木 もね

北方領土は、九日間で全てがロシアに占領された。さらに、それまで有効だった日ソ中立条約が破棄された。それは、日本がポツダム宣言を受諾し、国民に降伏を告知した後の大きな悲劇となった。

そんな日本は、「不法占拠された日本固有の領土」として、現在も北方領土の返還を求めている。自国の領土が他国に占領され、北方領土の島民が、住む場所や思い出、全てを奪われたという事実は、胸が締め付けられる思いだ。その一方で「日本全体」としての思いは、時と共に薄れ、諦めに変わり、やがては忘れ去られるのではないか。当時のままと語ることができる人も、徐々に減ってしまう。そんなことを考えると、私は危機感を感じてならない。

「占領されてから〇年」というニュースをふと目にすることがある。そこに映るのは、当時の島民らだ。一日でも早く。少しずつでも。自分が生きている間に。返還してほしい。北方領土が日本固有のものであることを、世界に向けて発信してほしい。などという、心の叫びが聴こえる。

しかし、常日頃から北方領土に関心を持ち、状況や事実を理解している人は、そう多くないと思う。では、なぜ私たちはそこまで北方領土の返還にこだわるのだろうか。

その土地があれば、日本の利益になるからだろうか。例えば、排他的経済水域を広げることができて、日本の経済も大きく変わるかもしれない。また、広がった土地を有効に使えばもっと人口が増えたり、観光地として発展できたりするかもしれない。それも理由の一つだろう。

だが、それは少し違うのではないかと私は思う。理不尽に、かつ強引に占領され、今に至るまで何も行動に移せなかったことへの反省。だからこそ我々が未来を変えなくてはならない、という日本としてのプライドがあるからではないだろうか。そして、島民らの望みを叶え、喜びと安心を、少しでも感じてもらいたいという思いがあるからではないか。

戦後からずっと抱えてきた問題であるから、すぐに解決できるものではないことは、誰もが知っているだろう。ただ、一步を踏み出さない限りは、どんなに時間がかかっても進まない。

争いで解決に向かうのは、また新たな悲劇を生むきっかけになってしまう。そのため、解決には両国の話し合い、理解が必要になる。そのため、まずは国民である私たちが北方領土に関心を持ち、情報を集めること、知識をつけていくことが求められる。

少しずつの進歩が、北海道、日本、そして世界を変えていく。

今こそ、もう一度現状と向き合う時である。